

防災千葉北部

NPO法人日本防災士会 千葉県北部支部会報 平成27年10月25日発行(第22号)
事務局 〒272-0812 市川市若宮2-27-8 090-4389-9380(飯岡方)

放送大学千葉学習センター「幕張祭」参加報告 初参加が成功裏に終了！！

千葉市の放送大学千葉学習センター主催の第7回「幕張祭」が10月10(土)、11日(日)の両日に亘り、千葉市美浜区の千葉学習センターで開催され、北部支部が首都圏支部連絡協議会、千葉県防災士技術支援チーム、BCN(防災コミュニティネットワーク)などの多大な協力を得て無事故で成功裏に終える事が出来ました。誠にありがとうございました。

放送大学は昭和56年に設立された通信制私立大学で、千葉市に本部を置き日本全国に数多くの学習センターを持ち、幅広い年代と職業の人がテレビ、ラジオ、インターネット等を通じて学び、累計約130万人の卒業生を持ち現在も約9万人が在学しています。

1. 今年の「幕張祭」のテーマは「つながる」で学内と地域でつながることを目指し、その重要な分野として「防災」が取り上げられました。「幕張祭」は学生だけでなく地域に開かれた催しで地域の皆さんの防災意識を啓発する良い機会となりました。



放送大学「幕張祭」見学に訪れた
明海祭望月実行委員長(右)と桜井副委員長



参加メンバー集合写真(初日朝)

2. 今回は次の内容で参加しました。

- (1) 地震体験：地震体験車で震度6～7を体験、東北地方太平洋沖地震(2011年)、兵庫県南部地震(1995年)などの地震波形を再現

- (2) 応急手当て体験：AED、心肺蘇生、担架搬送、三角巾、ロープワーク、テント張り等を実演し実地体験
- (3) 展示と懇談による防災意識の啓発：家具転倒防止、災害備蓄品、防災用品他

全ての分野で来場者参加型になるように心がけました。

3. 参加者の声

(1) 喉詰まり救助体験

「今年の餅突き大会でお爺さんが餅を詰まらせた。前に受けた心肺蘇生訓練をとっさに思い出し懸命にリレーでやったら餅を吐き出して危うく助かった。今日は良い方法を学べて良かった。体験は大事ですね」

(2) 心肺蘇生体験

「119番がすぐに出なかった。あわてた」

(3) ロープワーク体験

「マンションの3階に住んでいるが命と財産を守る方法を学べて大変良かった。早速14メートルのロープを買って忘れないよう練習します」

(4) 地震体験

「震度6、7クラスになると全く何も出来ないということがわかった」

「こわかった、楽しかった、すごかった」(小学生3人組それぞれの感想)

「しっかりした耐震性の高いマンションに引越しを考えたいくらい、震度6、7は恐ろしい事がわかった」

(5) 家具転倒防止展示見学

「冷蔵庫、テレビの下に転倒防止を敷いているが固定まではしていない。これでは震度6、7クラスではとても持たないことがわかった。」(地震体験車に乗った後見学して)



応急手当て、喉詰まり救助体験



地震体験車



家具転倒防止展示

4. 応急手当で部門担当者の感想メモ

- (1) 人が倒れている場面を設定し、自分ならどう対応するかやって貰った。
- (2) そのために北部支部の人達に第一発見者役、通行人役、救急隊員役などをやって貰い、楽しく事故現場の雰囲気作りに努めた。
- (3) 119番が言えない人が結構多かった。110番や118番（海上保安庁）を呼ぶ人もいた。
- (4) AEDのパットをはがし、はがしたペラペラの方を胸に貼る人がいた。
- (5) AEDのパットを2枚でなく1枚しか貼らない人がいた。
- (6) 「人工呼吸はやらなくて良い」という話に皆安心の様子。「吉永小百合ならやる」というおやしギャグまで飛び出した。
- (7) 「頭が真っ白になる」、「実際にやるとあせる」という人が多かった。
- (8) 悪戦苦闘しながらも自分が持つ知識を総動員し、AEDの音声指示を懸命に聴き、連れの仲間の援助を得ながら全員が最後までやり抜いた姿は素晴らしかった。
- (9) 緊急事態においては、自分一人でなく通行人や周りの人達を巻き込む事が、心身ともに負担を軽減し有効な救助処置につながる事がわかった。
- (10) AEDの音声指示に落ち着いて従うことが出来れば誰でもAEDが出来る事が再確認出来た。

5. 来場者数（参考）

- (1) 地震体験車乗車人数：209名
- (2) 心肺蘇生、AED体験参加数：約150名（連れなどの協力参加も含む）

2日間に亘り総計45名の方々に会場で御協力をいただきました。また当日参加されなかった皆様からも多くの御協力をいただきました。大変にありがとうございました。

放送大学幕張祭、成功裡に

～日本防災士会千葉県北部支部のご支援とご協力いただきました防災士会の皆さまに感謝！～

幕張祭実行委員長 齋藤 富貴子

放送大学千葉学習センター第7回秋祭り・幕張祭は、「災害知識と体験」をメイン行事に据えて10月10日、11日の両日に日本防災士会千葉県北部支部のご支援を得て実施することができました。

今年の幕張祭は「つながるー学内で地域でー」をテーマに、6月より準備を始め、北部支部事務局長の飯岡様（放送大学生）が実行委員会役員会の窓口となり、直前まで幕張祭全体の課題や防災に係る具体的内容について話し合い、ご提案いただきました。その結果、当日は大学内外から起震車には200名強、心肺蘇生AEDには約150名が体験され大変参考になったとの意見が多く寄せられ、また応急救護、テント設営・ロープワーク、防

災グッズ展示会場での懇切丁寧なご説明に対しては早速実施してみようと好評で、お陰さまで今回の「災害知識と体験」イベントが幕張祭全体を盛り上げる大きな力になりました。

当日の天候変化にも柔軟に対応くださり、実行に当たりさまざまなジャンルの専門家人材豊かな防災士会の皆さま方には多くの事態に助けいただきました。

ここに、ご協力下さった延べ45名の方々に多くの来訪者が喜んでいただけたことをご報告いたしますとともに、これまで献身的に御尽力いただきました飯岡様はじめ防災士会の皆様には、役員一同深く感謝しております。

最後に、今後の皆さまの益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

「第二回 そら博 (SORA EXPO 2015)」参加報告

登録会員数1300万人を超える世界最大のお天気ニュースコミュニティ「ウエザーニュース」主催の同社最大のイベントで、千葉市、千葉市教育委員会、船橋市教育委員会など数多くの組織、団体の後援を受けた「第二回そら博 (SORA EXPO 2015)」が8月1日(土)、2日(日)に千葉市幕張メッセで開催され、北部支部が千葉県防災士技術支援チームに協力しBCNと共に「防災・減災」分野で参加しました。

同イベントは「そらの自由研究」をテーマに、来場者参加型の様々な企画が数多く行われ、夏休みの始まり時期に当たったため夏休み研究のテーマ探しの子供達が数多く来場し、総来場者数は13,000人を超える賑わいとなりました。

特に父兄を含めた子供達や若い人達の参加が多く見られ、将来のために大変意義のある参加となりました。

北部支部の活躍の様子は「そら博2015」のホームページ上で、「明るく、楽しく、真剣に！」親子で学んだ防災・減災」とのタイトルで大きく紹介されました。起震車による地震体験、応急手当て体験(AED、心肺蘇生)、緊急脱出用ロープワーク体験などの様子が生き生きとした映像で報道されていますのでご覧ください。



「船橋市総合防災訓練」参加報告

平成27年8月30日、船橋市総合防災訓練が行われ、当支部は市から要請を受けて小学校19校、中学校1校にファシリテーターとして計23名が参加しました。訓練内容は、シェイクアウト、HUG、備蓄倉庫見学、防災用具組立訓練で、各小学校に市の災害時参集職員が進行役となって執り行われました。

当日は雨模様でしたが各校同時に行われ、防災士は主にHUGのファシリテーターや助言、総括などを担当し、避難所の位置付けから実状など、提言を含めてお話ししました。HUGは初めてというところから何回か行っている学校もあり、ばらつきが見られ、進行役がHUGを十分に理解されていないところもあったことから、防災士が積極的に関与して進行のお手伝いをしたところもありました。

参加者は自治会、町会、自主防、消防団、市職員、学校関係者などで、それぞれが熱心に参加されていましたが、短い時間の中で数種の訓練が盛り込まれていたことから消化不良を起こしている印象もあり、訓練計画時から防災士が積極的に参画することが望ましいという意見が参加した防災士から上がっていました。

この訓練に参加するにあたり、東京都支部、多摩ブロック、江戸川支部、千葉県防災士技術支援チームの各支部から応援をいただき、この場を借りまして御礼申し上げます。



4年前の平成23年3月15日、東日本大震災の時、我が習志野市では小学校の周りの住民や京成特急電車からの乗客が小学校に避難してきました。もしも次にM7.3の大地震が襲ってきたら、我が町会の住民も避難所となる小学校に避難する事態が起こることもあるかと心配になりました。

地震発生の翌4月には、校区内に住む千葉県災害対策コーディネーターの仲間と図り、校区の自主防災組織に「小学校が避難所になる場合の地域連携の問題を考えましょう」と呼掛け、3月11日の市内の被災状況と地域防災の問題を考え、共有化する場を持ちました。

その後、翌平成24年4月に16団体により自主防災組織連絡会を立上げ、事務局を務めています。予算無しの連絡会は以後習志野市危機管理課の支援を得て毎年、校区自主防災組織のリーダーを対象に災害図上勉強会、イメージ訓練、HUG訓練を毎年実施しています。訓練では、北部支部の皆さんにファシリテーターをお願いしました。

今年は、9月27日に習志野市の総合防災訓練として避難所運営訓練が計画されたため、避難所開設前の災害対応を考えるリーダー訓練を9月6日に小学校で実施しました。

以下、その実施内容をご紹介します。

1. 自主防災リーダー訓練の主旨

平成25年に行われた総合防災訓練では、避難所立上げ訓練に多くの市民が参加しましたが、避難所に集まることが防災とされ多くの参加者にはどんな場合に避難するか理解されないうままでした。今年度は、避難所運営委員会の立上げ、運営の訓練を行うことになりましたので、前回の課題をテーマにして訓練することにしました。

- (1) 各避難所が開設されるには、市の対策本部が設置されて職員が避難所開設するまで3時間以上要します。その間の避難住民は、小学校の校庭などが居場所です。
- (2) 住民は、避難所に行く前の3時間以上生き延びる必要があります。
- (3) 生き延びた人が避難所で、その運営を行わねばなりません。
- (4) その3時間以上を生き延びるため、日ごろの備えとその時の災害対応が必要です。
- (5) そのため、防災カルテが示す過酷な被災をイメージし、火災発生や死傷者発生などに対する避難前の行動と日ごろの備えを考え、共有化します。

2. 参加者

- ・20団体、45名

3. 発生地震の想定

- ・東京湾北部を震源とするM7.3の直下型地震により校区では震度6強の激しい揺れに襲われた。また、台風の余波で風速9 m/secの南風が吹いている。

4. 研修の流れ

(1) 防災カルテに基づく校区の過酷な被災想定への提示

- ①校区人口と世帯数
- ②建物全壊
- ③死傷者数、火災被害棟数 など

(2) 災害発生～3時間の住民の行動チャート説明

- ・平常時⇒災害発生⇒30分⇒3時間の事態の変化と対応

(3) 自分の身を守る安全行動訓練

- ・イメージ訓練の導入訓練です。

(4) イメージ訓練

- ①地震発生～30分間の災害イメージ、30分～3時間の災害イメージを設問とヒントで考えて貰います。
- ②3時間以後の地域と避難所のイメージを考えて貰います。

(5) 5グループにより意見交換

2つのテーマについて、ポストイットに意見を書いて災害時の行動と日ごろの備えを共有化しました。

- ①テーマⅠ：発生～3時間をどう行動し、日ごろの備えは？
 - ・火災発生の場合？怪我人発生の場合？
- ②テーマⅡ：3時間以後の避難所の中でどう行動し、日ごろの備えは？
 - ・避難所に行く場合？町会の生命財産の安全確保？
- ③アンケートで訓練結果を整理
 - ・訓練内容を理解して貰い、町会に持ち帰って普及、実行して貰うための試行錯誤です。



速報！！ 明海大学「第28回明海祭」への協力参加決定・開催迫る

浦安市明海に本部を置く明海大学の浦安キャンパス学園祭実行委員会からの要請を受け、北部支部として参加協力を決定しました。

明海大学は創立45周年を迎え、現在約4700名の学生を擁する私立の総合大学です。建学以来、地域市民とのつながりを大切にし、「何かひとつ人類のために私達にできる何かを」（同校校歌の一節）創り貢献出来る人材になる事を目指しています。



「明海祭」はこのようなモットーのもと同大学の学友会主催で開催されます。今年が28回目で本年は開催テーマを「カラフル（多彩）」とし、地域を含めたより多くの多彩な人達の参加を目指しています。今回の参加要請は北部支部の茂木防災士が友人を通じて同祭実行委員会に防災士会の紹介をしたことがきっかけとなりました。同祭には在学生だけでなく、学生の家族、同窓生、地域市民などが賑やかに集い合い、互いのつながりを深め合う場ともなっています。

浦安市は東日本大地震で甚大な液状化被害を受け防災意識が高い地域であり、防災関係のイベントを大学祭に加える事は意義のある事と思われます。加えてこれからの地域を担う若い人達に高い防災意識を持っていただく為の、大切な啓発機会となりますので北部支部として全力で取り組みたいと考えています。

「明海祭」への参加大要は以下の通りです。

1. 日時：10月30日（金）・31日（土）・11月1日（日） 11am～15pm（3日間）
（開会式：10/30 10:15）
2. 場所：浦安市明海 明海大学浦安キャンパス内
3. 参加内容：
 - ・地震体験（起震車）
 - ・応急手当体験（心肺蘇生、AED、担架ワーク、三角布、テントなど）
 - ・緊急脱出についての啓発（ロープワーク）
 - ・家具転倒防止についての啓発（各種用具展示）
 - ・備蓄品についての啓発（水、食料、トイレ、生活用品など）

編集後記

本号は、北部支部広報担当が発行する支部会報の第二弾となります。

このたびも防災訓練やイベントへの協力参加報告、支部会員の手記、それにお知らせとして直近の活動予定など、生き生きとした内容のある取材記事や情報をお寄せいただきましたが、特に放送大学「幕張祭」、そら博、明海大学「明海祭」など、地域団体組織のイベントへの初参加のご報告が新鮮でした。また、過去から取り組んでいる船橋市や習志野市の防災訓練等の地道な活動の様様もご報告いただきました。

皆様に感謝申し上げるとともに、次回1月号にお寄せいただく活動報告もまた楽しみにしております。今後とも皆様のご協力ご指導を、よろしくお願い申し上げます。

広報担当： 藤下 進 茂木 宏 青山久子 黒田哲司